



自然治癒という本をクリスマスプレゼントにもらいました。親友に言わせるとそれは私のような健康おたくには最悪のプレゼントで、心気症の人間に医学百科事典を持たせたようなものだそうです。でも日本の友人で私の健康おたく度を知る人は多くはありません。健康のこととなるとあまりに習慣の違いが大きく、なかなか考え方が合いません。中でも最大の違いは普通の人が病院に行く回数ではないでしょうか。

一般的な風邪やインフルエンザの場合、カナダでは絶対病院に行きません。それにインフルエンザの予防接種を受けることもまずありません。実際、インフルエンザと風邪の違いすら誰も知りません。ただただ自力で戦うのみです。抵抗力が落ちるからと抗生物質を出すのをためらう医者すらいます。私もそういう自然なやり方が好きです。人間の体というのはたいしたもので、自力でこういうウイルスと戦うことができます。抗生物質や抗ウイルス剤や点滴は応急処置で、長い目でみた治療ではありません。薬は結構ですと言うと日本でも医者はいつも気分良く聞き入れてくれますし、こういう抵抗を褒めてくれることさえあります。

もし今度風邪を引くようなことがあったら、そのたっぶりの薬が本当に必要かどうか医者に見せてもらおう。もう少し自然なやり方を試してみませんか。

Doctor, Doctor!



とてなかく病ヲ癒へ!

For Christmas, I received a book titled "Natural Cures". One of my close friends who knows that I am a health fanatic, thought the book was the worst gift that anyone could have given me. He declared that it was like giving a medical encyclopedia to a hypochondriac! I don't think that many of my Japanese friends know how much of a health freak I am. I find it especially hard to share my views in Japan as I've found that when it comes to matters of health, our habits are so very different. The biggest difference is the frequency in which the average person visits a doctor here! For the common cold and flu, we never run to the doctor back home. Rarely does anyone get inoculated for the flu. Actually, no one even knows the difference between the flu and a cold. You just let your body fight through it. Some doctors are even hesitant to hand out antibiotics for fear that it will make our bodies defenses weak. I like doing things the natural way. Our bodies are amazing in that they are able to fight these bugs on their own. Things like antibiotics, anti-virals and IV drips are all quick fixes that don't consider the long run. Whenever I refuse medicine, even in Japan, the doctors have always happily complied and have even praised my defiance. Why not try a bit of a natural approach by asking your doctor whether you really need a handful of pills next time you catch a cold? Your body might thank you for it!

英語学習指導員 宮地晶子の

エイゴのマナビカタ

第24回

間違っている!

英検の二次試験の面接委員をしてつくづく思うことがあります。それは、「間違っている!」です。

例えば英検三級の場合、一次試験(筆記と聞き取り)に合格すると二次面接があります。このとき、たった4行の英文なのに、通じるように読める受験者がいない。

読めない単語があるだけではなくとにかく英文が読めない子が多いのです。

中学生の場合、三級を受ける子は英語の成績が4や5の子が圧倒的に多い。つまりはできる子です。

ところがいざ英文を音読して、それについて簡単な質問に答えるということになると全くといっていい程で

い。これはショックです。イラストを見て描写する場合でも、一年生で習った表現で十分なのにそれが自由に使えない。あるとき非常に指導力のある先生が私にこうもりました。「私は三年間この子たちに何を教えてきたのだろ?」と。

一次試験は短期間に三年間の勉強を振り返れば、たいてい受かります。集中的に取り組むことで英語の枠も広がりがつづのが実感できます。二次だつて模擬面接を繰り返すことで、とりあえずは受かります。でも、やっぱり何か間違っているという気持ちがあぐえませぬ。

すべての英語力のもと中学校の英語にあります。しかしそれを見つめて解く、という勉強だけではあまり遠くまで行くことはできません。高校に入つて長くなる英文の読解力、大学入試の聞き取り、実社会での通じる英語、全てはつながっています。

もっと音読をしましょう。手と耳と口を使って全てに通ずる英語を身につけましょう。